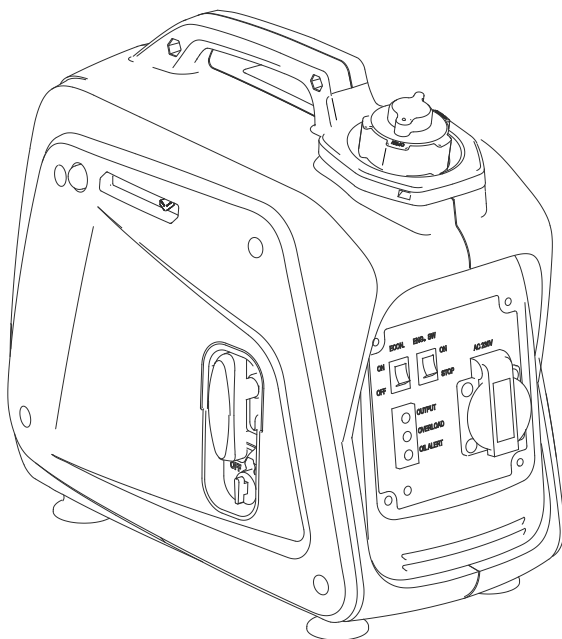


防音インバーター発電機

SGB-1000i・SGB-1700i

取扱説明書



※ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をよくお読みになり、
内容を理解してからお使いください。

目次

1. 安全にご使用していただくために	2
2. 製品機能	3
3. ご使用の前に	5
4. 使用方法	6
5. 定期メンテナンス	9
6. トラブルシューティング	14
7. 保管・運搬方法	15
8. 仕様	17
9. 配線図	19

！警告

発電機をご使用になる前に、この取扱説明書をよく読み、内容を理解してください。

1. 安全にご使用していただくために

1) 排気ガスは有毒です。

- 排気ガスには有毒成分が含まれます。通気の悪い場所で使用すると、短時間で、一酸化炭素が溜まりガス中毒の危険があります。室内、倉庫内など、通気の悪い場所では、絶対に使用しないでください。

2) 燃料は引火性が高く、有毒です。

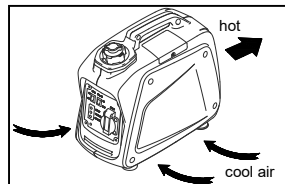
- 燃料は引火性が高く、気化した燃料は爆発する恐れがあります。必ず、エンジンを停止させ、通気のよい場所で給油してください。
- 給油中は、喫煙・火気厳禁です。火災や爆発の原因となり大変危険です。
- 給油の際、エンジンまたはマフラーに燃料がこぼれないように気をつけてください。
- 誤って燃料が口や目に入ってしまった場合は、ただちにきれいな水で、洗い流し、速やかに医師の判断を受けてください。
- 燃料が皮膚に付着してしまった場合、石鹸と水でよく洗い流してください。衣服に付着した場合は、服を着替えてください。
- 使用または移動する際に、発電機が直立しているか確認してください。傾いている場合は、キャブレターまたは燃料タンクから燃料が漏れる可能性があります。

3) エンジンとマフラーは高温です。

- 使用中・使用後は、マフラーおよび周辺が非常に熱くなっています。手を直接触れないでください。
- 子どもや歩行者が触れないような場所に、発電機を置いてください。
- 使用中は、排気口付近に、可燃物を置くのを避けてください。
- エンジンがオーバーヒートを引き起こす恐れがあるので、発電機を建物や壁から2m以上離してください。
- ダストカバーと一緒にエンジンを作動するのをさけてください。
- 本体上部の運搬ハンドルをしっかりとって運搬してください。
- 熱を自由に排出するために、平坦な場所に発電機を置いてください。

4) 感電防止

- 雨や雪が降っている中では、エンジンをかけないでください。
- ショートや感電の恐れがあるので、濡れた手で発電機に触れないでください。



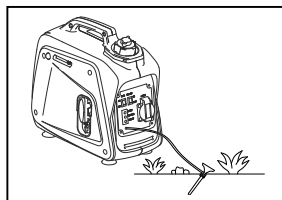
- 必ず発電機をアースしてください。

注意:

十分な電流容量のあるアース線を使ってください。

直径 : 0.12mm (0.005inch)/アンペア

例) 10A-1.2mm



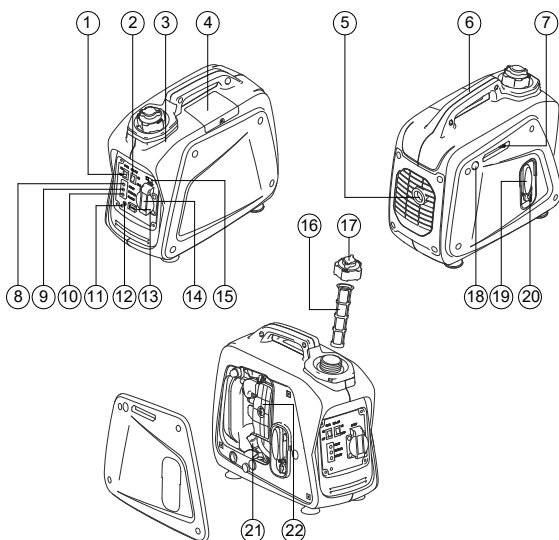
5) 接続注意

- 家庭電源に接続しないでください。
- 他の発電機と並列に接続して使用しないでください。

2. 製品機能

各部名称

- | | | |
|----------------|----------------|-----------------|
| (1) エコスイッチ | (2) 運転スイッチ | (3) 燃料タンク |
| (4) スパークプラグ | (5) マフラー | (6) 運搬ハンドル |
| (7) チョークレバー | (8) 運転表示灯 | (9) 過負荷表示灯 |
| (10) オイル警告表示灯 | (11) アース端子 | (12) DC保護スイッチ |
| (13) DCソケット | (14) ACソケット | (15) 周波数切替えスイッチ |
| (16) 燃料フィルター | (17) 燃料タンクキャップ | (18) 燃料ポンプ |
| (19) リコイルスターター | (20) 燃料コック | (21) オイルキャップ |
| (22) エアクリナーカバー | | |



1) オイル警告システム

エンジンオイル不足によるエンジンへのダメージを避けるための安全装置です。エンジンオイルが安全レベルを下回る前に警告システムがエンジンを停止します。エンジンオイルを補給しない限り、エンジンは始動しません。

2) 運転スイッチ

運転スイッチは点火装置をコントロールします。

①入 (運転)

点火回路にスイッチが入ります。エンジンを始動させることができます。

②切 (停止)

点火回路のスイッチを停止させます。エンジンは始動しません。

3) エコスイッチ

エコスイッチを「入」にすると、電気機器を使用していないときは、自動的にエンジン回転数が下がります。電気機器を使用すると自動的にエンジンは負荷の大きさに応じた回転数になります。また、発電機の音を抑えられます。

4) DC保護スイッチ

発電機への負荷が定格出力を超えた時に、DC保護スイッチが自動的に停止します。

忠告:

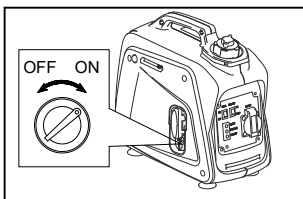
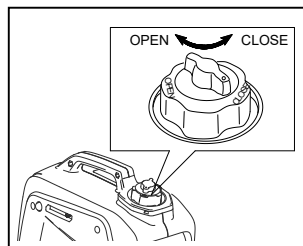
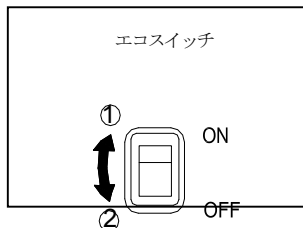
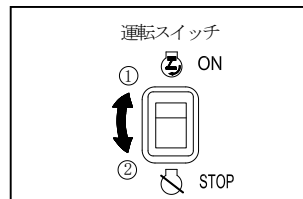
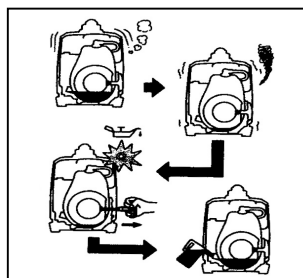
- DC保護スイッチを停止する場合、仕様の定格出力以内に負荷を抑えてください。

5) 燃料キャップ通気ノブ

タンクキャップには、燃料の流れを調節する通気ノブが設けられています。ノブを「OPEN」の位置にすると燃料が流れ、「CLOSE」の位置では、燃料は流れません。エンジンを始動しないときは、燃料の流量を止めるために、通気ノブをしっかりと閉めてください。

6) 燃料コック

燃料コックは、燃料をタンクからキャブレターに供給するため



に使用します。

3. ご使用前に

注意:

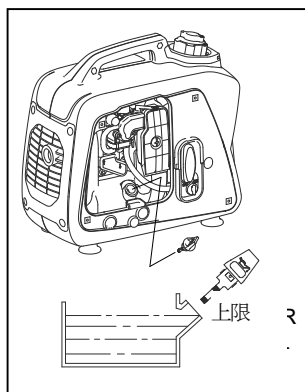
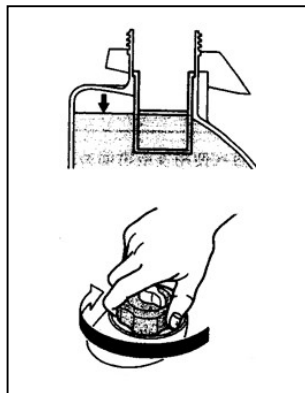
- 使用前に、始動前点検を必ず行ってください。

1) エンジン燃料の点検

- タンクに十分な燃料があることを確認してください。
- 燃料が少ない場合は、無鉛ガソリンを補給してください。
- 燃料フィルターの赤いライン上を確認してください。
- 推奨燃料：無鉛ガソリン（自動車用レギュラーガソリン）
- 燃料タンク容量：3 L (SCB-1000i)、4.1 L (SCB-1700i)

警告:

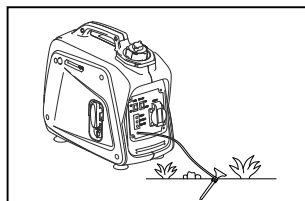
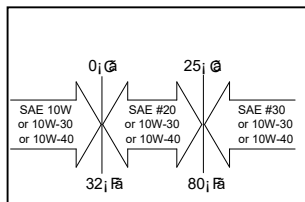
- エンジンが始動している間は、燃料の補給を行わないでください。
- 燃料の補給前は、燃料コックを閉めてください。
- 燃料の中にホコリ、ゴミ、水、異物などが入らないように気を付けてください。
- フィルターの赤いラインより上まで、給油しないでください。燃料が熱くなり、全体にまわった時に、オーバーフローを引き起こす恐れがあります。
- エンジンを始動させる前に、こぼれた燃料をふき取ってください。
- 火気厳禁です。



2) エンジンオイルの点検

エンジンオイルが注入口付近までであるか確認してください。必要に応じて、エンジンオイルを足してください。

- オイルキャップをはずし、オイル量をチェックしてください。
- オイル量が減った場合、規定量までオイルを補給してください。
- オイルが汚れた場合、オイル交換を行ってください。
- オイル容量：0.35 L (SCB-1000i)、0.75 L (SCB-1700i)
- 推奨エンジンオイル：SAE 10W-40（セイワジェットクリーンオイル）



3) アース接地

使用には、アース端子より、地面にアースしてください。

4 使用方法

注意:

- 製品梱包出荷時には、エンジンオイルは給油されていません。オイルを給油しないかぎり、発電機は始動しません。
- エンジンオイルの補給時に、発電機を傾けないでください。オーバーフィルを引き起こし、エンジンが損傷する恐れがあります。

1) エンジンの始動

注意:

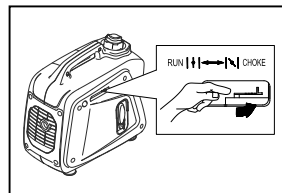
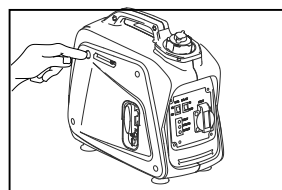
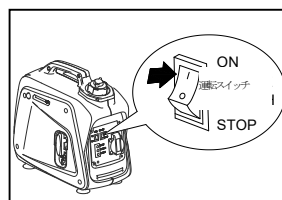
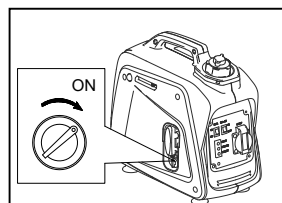
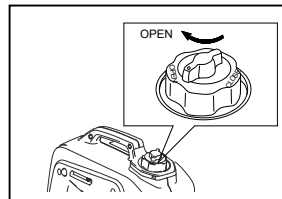
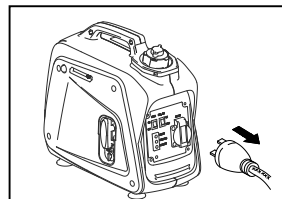
- エンジンの始動前に電気機器を接続しないでください。

1. 「OPEN」の位置に燃料キャップ通気ノブを開けてください。
2. 「ON」の位置に燃料コックレバーを回してください。
3. 運転スイッチを入れてください。
4. 発電機を初めて使用する際に、ガソリン補給後、燃料ポンプを6回押してください。
5. チョークレバーを「始動」に切り替えます。エンジンが暖まっているときはチョークレバーを使用する必要はありません。
6. 本体をしっかり押さえ、リコイルスターターハンドルを軽く引き、重たくなる位置で、一度リコイルスターターハンドルを戻します。リコイルスターターハンドルを勢いよく引いてください。エンジンが始動したら、スターターハンドルを手に持ちながら、元の位置に戻してください。
7. エンジンが暖まります。
8. チョークレバーを「運転」に切り替えます。
9. 負荷が掛からなければ、2、3分でエンジンが暖まります。

2) 電力の使用方法

1. AC（交流電流）出力の使用について

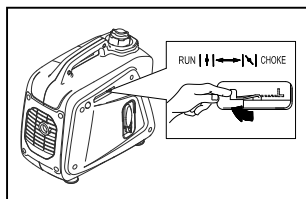
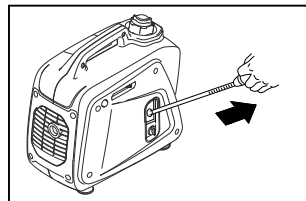
- (a) 運転表示灯（緑）が正常に点灯しているか確認してください。
- (b) 電気機器をAC100V出力ソケットに接続する前に、電気機器の電源を「OFF」にしてください。



(c) 使用する電気機器のプラグを、AC100V出力ソケットに差し込んでください。

忠告:

- 使用する電気機器のスイッチが「OFF」になっているか確認してください。
- 使用する電気機器の出力が定格出力の範囲内か確認してください。
- 使用する電気機器の出力電流値が、AC100V出力ソケットの定格電流の範囲内か確認してください。
- コンプレッサーのような電気負荷の大きい電気機器を使用ときは、エコスイッチを「OFF」にしてください。

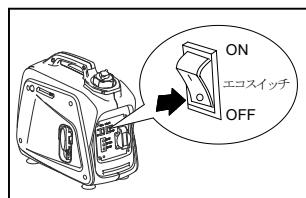
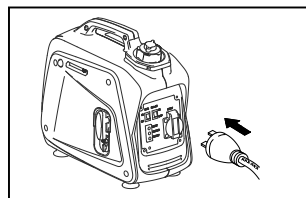


2. 過負荷表示灯

過負荷表示灯は、過負荷を感知した時、インバーター制御装置の過熱、交流出力電圧が上昇した時に時に点灯します。その時、発電機や接続された電気機器を保護するために、ブレーカーが作動し、電気の出力が停止されます。運転表示灯（緑）が点滅、過負荷表示灯（赤）が点灯し、エンジンが停止します。

下記の手順に従ってエンジンを再始動してください。

- 使用している電気機器のスイッチを切って、エンジンを停止してください。
- 接続された電気機器の合計ワット数を適応範囲内に下げてください。
- 冷却空気取入口の中や制御装置の周りに詰まっているものがないか確認してください。詰まっているものが見つかった場合は、取り除いてください。
- 過負荷表示灯が作動した原因を解決してから、エンジンを再始動してください。



忠告:

- エンジンが停止、再始動する際に、発電機のAC出力は自動的にリセットされます。
- コンプレッサーのような大きな起動電流が必要とされる電気機器を使用する場合、数秒で過負荷表示灯が点火する可能性があります。これは、誤作動ではありません。

3. DC(直流)出力の使用について

DCソケットは自動車用バッテリー（12VDC）の充電だけにお使いいただけます。

(a) バッテリーの充電方法

- バッテリー用のリード線を外します。
 - バッテリー液フィルターキャップを完全に緩めてください。
 - バッテリー液が少ない場合、上限まで蒸留水を入れてください。
 - フル充電でのバッテリー液の比重は、1.26～1.28以内になります。毎1時間ごとに確認することをお勧めします。
- (b) DC出力ソケットとリード線付きのバッテリー端子の間を接続してください。プラス（+）極とマイナス（-）極を必ず確認してから、リード線を接続してください。
- (c) DC保護スイッチが「切」になっている場合、接続を確認後、保護スイッチを「入」にしてください。

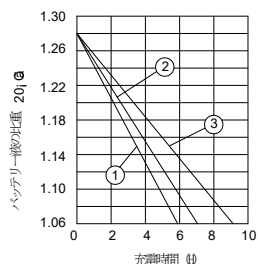
忠告:

- バッテリー充電中は、エコスイッチが「切」になっているか必ず確認してください。

3) エンジンの停止

1. 電気機器のスイッチを「OFF」にしてください。
2. 電気機器の電源プラグを、各出力ソケットから抜いてください。
3. 運転スイッチを「切」にしてください。
4. 燃料コックを「OFF」にしてください。
5. タンクキャップ通気ノブを「CLOSE」にしてください。

バッテリー液の比重と充電時間の比較表

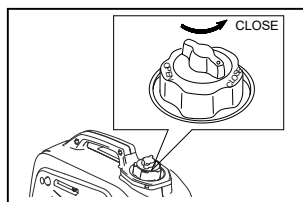
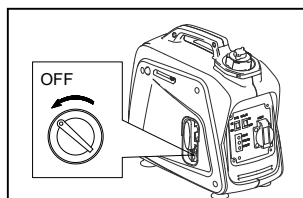
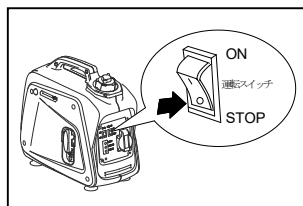
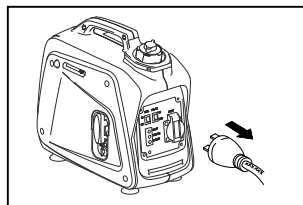


バッテリー容量

1. 30AH 20HR

2. 35AH 20HR

3. 47AH 20HR



5. 定期メンテナンス

定期的なメンテナンスは、発電機の性能維持、安全運転のために大切です。

始動前点検以外に、6 カ月、1 2 カ月点検を実施してください。

●6ヶ月点検項目

- ・スパークプラグの電極の焼け具合と清掃
- ・プラグコードの損傷の有無
- ・スターターハンドル、ロープの損傷の有無と作動具合
- ・エンジンの始動性と異音、異臭の有無
- ・エンジンオイルの交換および漏れの確認
- ・排気の状態
- ・エアクリーナーエレメントの状態
- ・燃料の状態（漏れの有無）
- ・燃料ホースの損傷の有無
- ・チョークレバーの作動具合
- ・キャブレターの機能
- ・各出力ソケットの機能 ・本体各部の増し締め

●12ヶ月点検項目

- ・スパークプラグの電極の焼き付け具合と清掃
- ・プラグコードの損傷の有無
- ・スターターハンドル、ロープの損傷の有無と作動具合
- ・エンジンの始動性と異音、異臭の有無
- ・エンジンオイルの交換および漏れの確認
- ・排気の状態
- ・エアクリーナーエレメントの状態
- ・燃料の状態（漏れの有無）
- ・燃料ホースの損傷の有無
- ・チョークレバーの作動具合
- ・キャブレターの機能
- ・シリンダー内のカーボン除去
- ・マフラーの状態と損傷の有無
- ・各出力ソケットの機能
- ・本体各部の増し締め ・圧縮圧力の機能

●定期運転・交換

・保管・格納状態であっても、常に使用できる状態を保つため、定期運転・交換を行ってください。

(1) 定期運転

・1か月に一度、電気機器を接続し、エンジンの作動状態を確認してください。

(2) 定期交換

・燃料をタンク内に残したまま保管する場合は、燃料の変質を防ぐため、3ヶ月に1度は燃料タンク内の燃料を交換してください。

・長期間保管する場合は、必ず燃料を全て抜いてください。

	使用前 点検 (毎回点検)	1ヶ月 または 20時間 運転	3ヶ月 または 50時間 運転	6ヶ月 または 100時間 運転	12ヶ月 または 300時間 運転
エンジンオイル	点検	交換 ※2		交換	交換
エアクリーナー	点検・清掃 ※1		点検・清掃	点検・清掃	
スパークプラグ				点検 清掃・調整	交換
燃料タンク			点検・清掃		
ストレーナー	点検	清掃			

※1. ホコリや塵が多い場所で使用した場合は、エアクリーナーを10時間運転後、または1日1回清掃してください。

※2. エンジンオイルは、初回運転時のみ1ヶ月、または20時間運転後に交換してください。

それ以降は6カ月、または100時間運転後に交換してください。

2) オイル交換

1. 発電機を水平な場所に置き、数分間エンジンを暖めてください。
その後、エンジンを停止し、「OFF」に燃料コックノブを回してください。燃料キャップ通気ノブを右回りに回してください。
2. ネジを緩め、カバーを取り外してください。
3. オイルキャップをはずしてください。
4. エンジンの下にオイルパンを置いてください。オイルを完全に抜くために、発電機を傾けてください。
5. 元にあった場所に、発電機を置いてください。
6. エンジンオイルを上限まで足してください。
7. オイルキャップを取り付けてください。
8. カバーを取り付け、ネジをきつく締めてください。

●推奨エンジンオイル：SAE 10W-40（セイワジェットクリーンオイル）

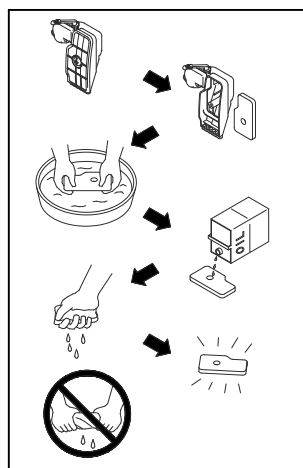
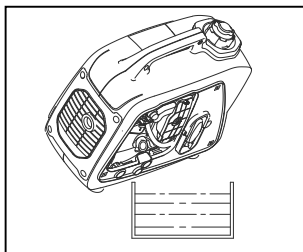
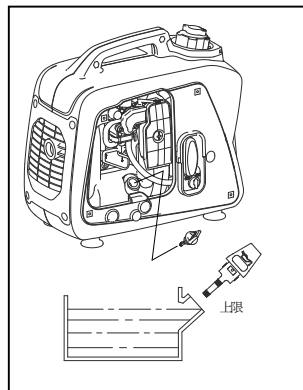
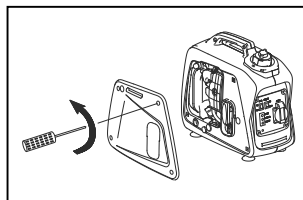
忠告:

- クランクケースに異物が混入しないように確認してください。
- エンジンオイルを足す際は、発電機を傾けないでください。オーバーフィリングを引き起こし、エンジンが損傷する恐れがあります。
- 初回は、1ヶ月、または20時間運転後にオイル交換を行ってください。
- 初回以降は、6カ月毎または100時間運転後のペースでオイル交換を行ってください。

3) エアクリナー

エアクリナーを良い状態に保つために、手入れすることは非常に大切です。不適切に取付け、点検、不十分なエレメント等によって誘発されたゴミやほこりは、エンジンの損傷や摩耗を引き起こします。常にエレメントを清潔な状態にしておいてください。

1. カバーを取り外してください。
2. エアフィルターカバーとエレメントを取り外してください。
3. 混合油（白灯油3：エンジンオイル1）で洗浄してください。



4. エレメントをエンジンオイルに浸し、オイルが滴らない程度に余分なオイルを取り除きます。
5. 取り外した逆の手順で組み付けをしてください。

忠告:

- ・エレメントが取り付けられていない状態で、絶対にエンジンを始動させないでください。
ピストンやシリンダーの摩耗を引き起こす恐れがあります。
- ・エレメントを損傷させないように十分注意し、清掃してください。
- ・強く絞り過ぎないでください。エレメントが破れ、エンジン不調の原因となります。

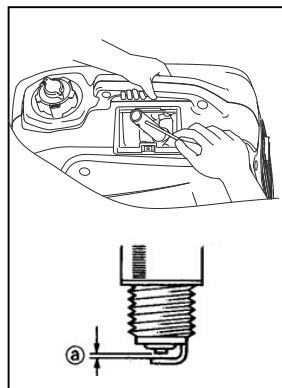
4) スパークプラグの点検・清掃・交換

1. 点検・清掃：6ヶ月、または100時間運転後
2. 交換：1年、または300時間運転後
3. 純正スパークプラグ型番（SGB1000i）：CMRGA（TORCH）、CMGRH（NGK）
（SGB1700i）：A5RTC（TORCH）

4. 規定締め付けトルク：10～12Nm

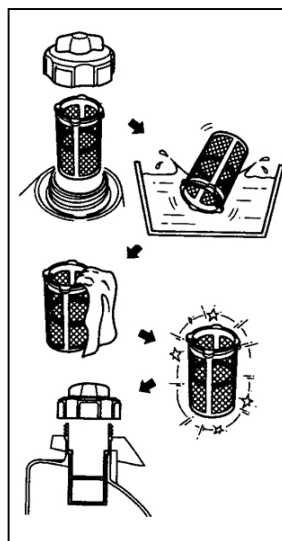
＜スパークプラグの取り外し手順＞

1. 運転スイッチを「切」にしてください。
2. プラグカバーを取り外してください。
3. スパークプラグの型とギャップ（隙間）を点検してください。スパークプラグギャップ目安は、0.6mm～0.7mm（a）です。
4. 取り外した逆の手順で組み付けを行ってください。



5) 燃料タンクフィルター

1. 運転スイッチを「切」にしてください。
2. タンクキャップを外し、タンクフィルターを取り外してください。
3. 洗浄液を使用し、タンクフィルターをきれいに洗浄してください。
4. タンクフィルターを、きれいにふき取り燃料タンク給油口に取り付けてください。
5. タンクキャップを取り付けてください。



！警告

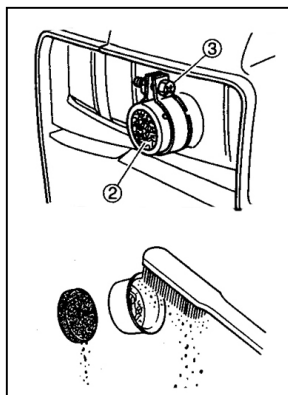
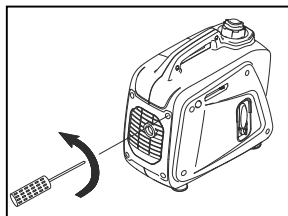
- 必ずタンクキャップをきつく締めてください。

6) マフラー

！警告

- エンジン停止直後のエンジンやマフラーの温度は、非常に高くなっています。
- 点検や修理中は、エンジンやマフラーが熱くなっているため、絶対に手を触れないでください。

1. 運転スイッチを「切」にしてください。
2. カバーを取り外してください。
3. バンドを緩め、マフラー排気口先端のメッシュキャップを取り外してください。
4. ワイヤブラシを使用し、メッシュ部分に付着した汚れを取り除いてください。
5. 取り外した逆の手順で組み付けしてください。



6. トラブルシューティング

症状	原因	原因箇所と原因	対策
エンジンが始動しない	燃料系統のチェック (燃料室に燃料が供給されていない)	燃料タンクが空になっている	燃料を給油する
		タンク内の燃料	燃料タンクキャップ通気ノブと燃料コックノブを「ON」にする
		燃料コックが詰まっている	燃料コックを清掃する
		キャブレターが詰まっている	キャブレターの分解洗浄を行う
	エンジンオイルのチェック	オイル量が減っている	エンジンオイルを足す
	電気系統のチェック (スパークプラグより火花が飛んでいない)	スパークプラグが汚れている	スパークプラグの清掃を行う
		スパークプラグにカーボンが付着している	スパークプラグの清掃を行う
		点火系統の不良	浜松サービスセンターへ修理を依頼する
交流電気が出力されない	圧縮系統 (圧縮不足、圧縮漏れ)	ピストンリングが損傷している	浜松サービスセンターへ修理を依頼する
	エンジンが停止していないか	エンジンが停止している	使用電気機器の出力が定格出力を超えていないか確認し、超えている場合は、定格出力内に減少させ、エンジンを再始動させる

注意

- ・ 解決方法を試しても症状が改善されない場合や、上記以外の症状が確認された場合は、浜松工場配送センターまでご連絡ください。

7. 保管・運搬方法

1) 保管方法

長期間の発電機の保管には、劣化を防止するためにいくつかの予防策が求められます。

(1) 燃料の抜き方

1. 燃料コックを「OFF」にしてください。
2. タンクキャップを外し、ストレーナーを取り外してください。
3. 市販の燃料ポンプで、燃料タンクの燃料を抜き、別容器に入れてください。
容器・給油ポンプは、必ず耐ガソリン製のものを使用してください。
4. 燃料コックを「ON」にしてください。
5. 運転スイッチを「入」にしてください。
6. エンジンを始動させ、ガス欠状態で停止するまで運転してください。
(ガス欠までの時間は燃料残量により異なります。)
7. 運転スイッチを「切」にしてください。
8. 燃料コックを「OFF」にしてください。

注意

- ・火災や爆発の恐れがあるので、作業中は喫煙・火気厳禁です。
- ・燃料は引火しやすく、気化した燃料は爆発する恐れがあるため、作業中は必ずエンジンを停止し、通気のよい場所で作業を行ってください。
- ・作業中に燃料がこぼれた場合、全てきれいに拭き取り、完全に乾かしてからエンジンを始動させてください。
- ・万が一、燃料が目に入ったり、皮膚に付着したりした場合は、速やかに清潔な水で洗い流してください。

(2) エンジン

1. スパークプラグを取り外してください。
2. スパークプラグ穴に、SAE 10W-30または20W-40のモーターオイルを大さじ一杯ほど注いでください。
3. スパークプラグを元の位置に戻してください。
4. エンジンを始動させるために数回にわたってリコイルスターターを使用してください。
(イグニッションを停止して)
5. 圧縮を感じるまで、リコイルスターターを引いてください。
6. スターターを引くのをやめてください。
7. 各部を清掃し、防錆処理を施してください。
8. 本体にカバーをかけて、屋内で湿気が少ない換気のよい場所に保管してください。
9. 発電機を垂直な状態で保管してください。

注意

- ・振動や衝撃で燃料がこぼれる恐れがあるので、燃料タンク内のガソリンを全て抜いてください。
- ・ガソリンが気化し引火の危険があるので、直射日光の当たる場所に長時間保管しないでください。
- ・燃料が自然劣化し、エンジン始動が困難になる場合があるので、長時間使用しない場合は、必ず燃料を全

て

抜いてから保管してください。

- ・発電機の上に重い物を置かないでください。
- ・倒れたり、落下したりしない安全な場所に保管してください。

2) 運搬方法

自動車やトラックなどで運搬する時は、次の項目に従って運搬してください。

1. 運転スイッチを「切」にしてください。
2. 燃料を全て抜いてください。
3. タンクキャップ通気ノブを「CLOSE」にしてください。
4. ロープ等で、本体をしっかりと固定してください。

注意

- ・振動や衝撃で燃料がこぼれる恐れがあるので、燃料タンク内のガソリンを、全て抜いてください。
- ・ガソリンが気化し引火の危険があるので、車内に積載したまま直射日光の当たる場所に長時間放置しないでください。

1. 仕様

SGB-1000i

型式			SGB-1000i
発電機	製品		インバーター防音発電機
	AC 電圧	50Hz	100V
		60Hz	100V
	最大出力		1.2kW
	定格出力		1.0 kW
	力率		1.0
	DC (直流) 出力		12V / 4.0A
エンジン	エンジン機種		XY144F-1
	エンジン種類		空冷4サイクルガソリンエンジン (OHV)
	ボア×ストローク	mm×mm	44×39.5
	排気量		60 cc
	最大出力		1.3kW / 5500rpm
	燃料		無鉛レギュラーガソリン
	燃料タンク		3.0 L
	連続使用時間		4.8 時間
	エンジンオイル		SAE 10W-40
	エンジンオイル容量		0.35 L
	始動方法		リコイルスターター
	点火装置		C. D. I.
	スパークプラグ		CMR6A (TORCH)
寸法	全体寸法	L×W×H	448×236×392
	全体寸法 (梱包時)	L×W×H	480×255×425
	重量		13.5 Kg
	重量 (梱包時)		15.0 Kg

- 仕様は事前の通知なしで変更される可能性があります。

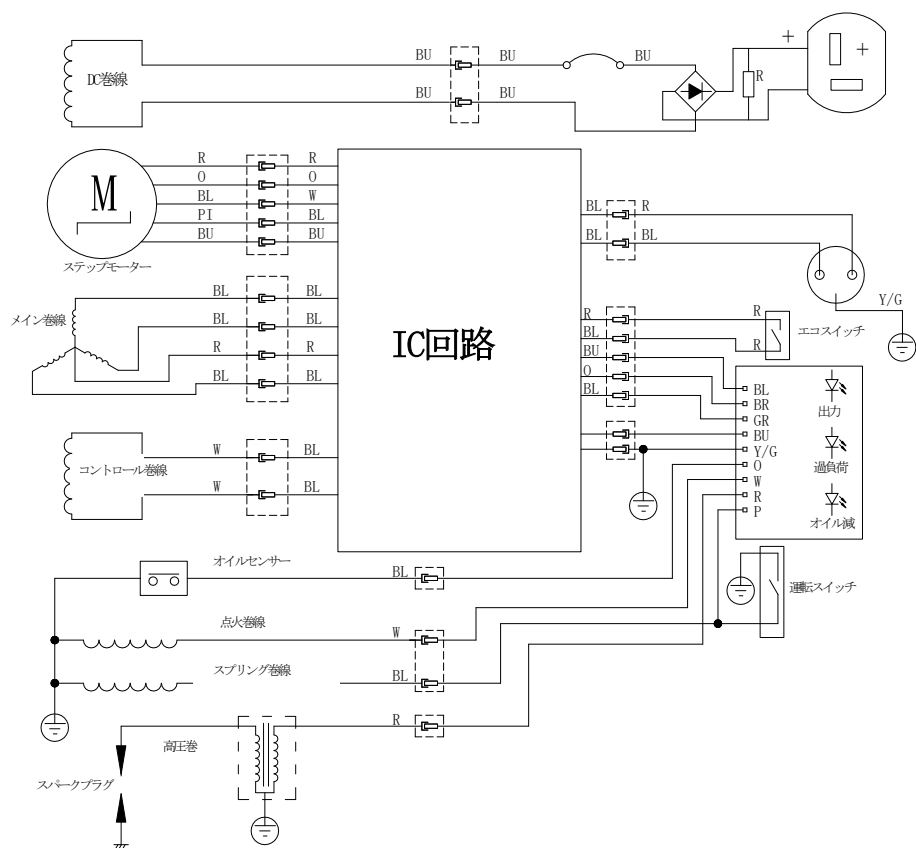
SGB-1700i

型式			SGB-1700i
発電機	製品		インバーター防音発電機
	AC (交流) 電圧	50Hz	100V
		60Hz	100V
	最大電力		2.0kW
	定格出力		1.7 kW
	力率		1.0
	DC (直流) 出力		12V / 6.0A
エンジン	エンジン機種		XY152F-4
	エンジン種類		空冷4サイクルガソリンエンジン (OHV)
	ボア×ストローク	mm×mm	52.4×46
	排気量		100 cc
	最大出力		2.3kW / 5500rpm
	燃料		無鉛レギュラーガソリン
	燃料タンク		4.5 L
	連続使用時間		4.8 時間
	エンジンオイル		SAE 10W-40
	エンジンオイル容量		0.75 L
	始動方法		リコイルスターター
	点火装置		C. D. I.
	スパークプラグ		A5RTC (TORCH)
寸法	本体寸法	L×W×H	525×282×457
	全体寸法 (梱包時)	L×W×H	555×315×490
	重量		18.5 Kg
	重量 (梱包時)		21.0 Kg

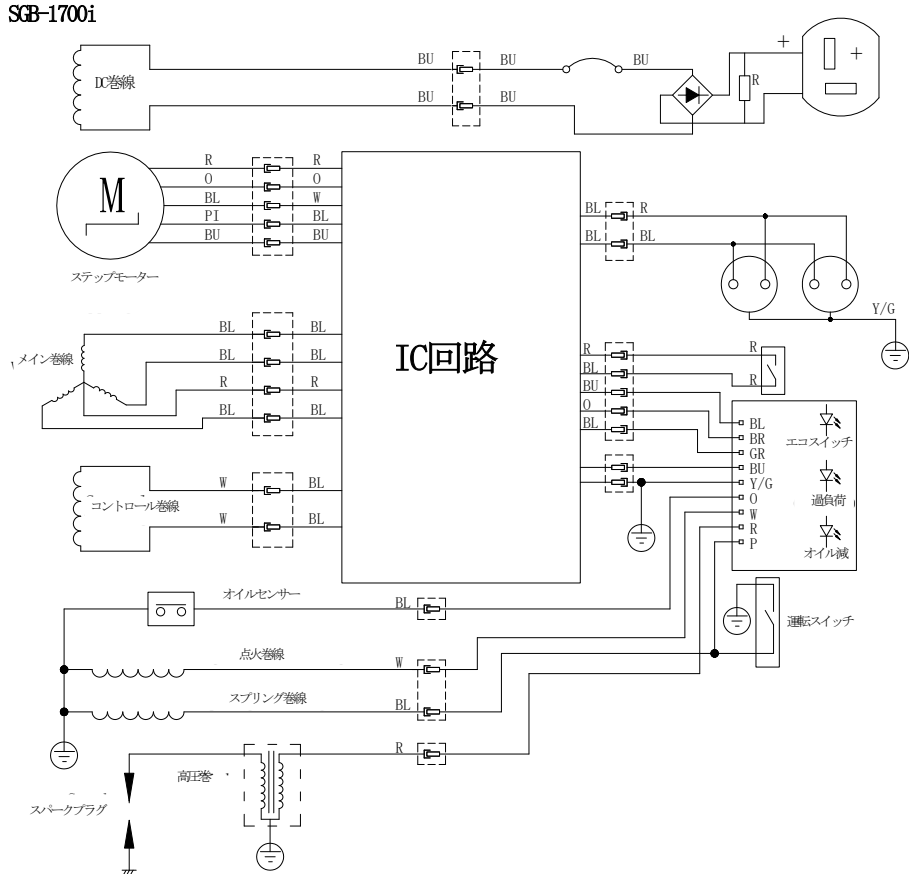
- 仕様は事前の通知なしで変更される可能性があります。

9. 配線図

SGB-1000i



BL	黒	Br	茶
BU	青	R	赤
G	緑	WHITE	白
Y	黄	ORANGE	オレンジ
P	紫	Y/G	黄/緑
GR	グレー	PI	ピンク



BL	黒	B	茶
BU	青	R	赤
G	緑	WHITE	白
Y	黄	ORANGE	オレンジ
P	紫	Y/G	黄/緑
GR	グレー	PI	ピンク

ガソリン発電機の運転開始前に必ず下記空欄に必要なことがらを記入してください。点検の時に大変役に立ちます。

項目	ご記入欄		
型式	SGB-1000/1700I	ご使用年月日	
製造番号		ご購入先 (必須)	
購入年月日		※必ずご記入ください	TEL ()

アフターサービスについて

保証規定

1.保証内容

お買い上げの日から1年の間に正常な使用状態にも関わらず弊社の責任に基づき故障が発生した場合は無償修理させていただきます。

2.適用除外 ●保障期間中でも下記の場合には適用いたしません

- (1) 不当な修理や改善による故障、損傷。
- (2) お買い上げ後の落下などによる故障、損傷。
- (3) 火災、塩害、ガス外、地震、風水害、落雷、異常電圧およびその他の天災地変による故障、損傷。
- (4) 使用・取扱上の酷使、過失、手入れ不十分および外的損傷による故障、損傷。
- (5) ノズル、撹動部の磨耗およびバッキン等の消耗部品。
- (6) 注意事項および取扱説明書に記載した内容の範囲外の条件で使用した故障および損傷。
- (7) 書類に不当な字句訂正などがあった場合。

3.本書はお買い上げの納品書(納入口)に記載されていることを確認)とともに大切に保管してください

ユーザー登録について

～保証対象の確認および、速やかな保証対応のために、機械購入時にユーザー登録をお願いします～
同封の保証書に必要事項をご記入いただきFAXいただくか、弊社ホームページ経由でも受付をしています。ホームページ経由でご登録いただきますと、ご購入いただいた商品のメンテナンス情報、関連する付属品、便利なオプション品情報、新商品情報など、定期的に情報配信をさせていただきます。

是非、この機会にご利用くださいますようお願いいたします。

・登録場所/精和産業トップページ右側「保証書ユーザー登録」

<https://www.seiwa.com>

ここからも登録できます→



修理サービス

修理はお買い上げの販売店又は、弊社最寄りの営業所にご連絡ください。

SEIWA 精和産業株式会社

浜松配送センター

〒432-8006 静岡県浜松市中央区大久保町1348
TEL 053(485)6181 FAX 053(485)6180

仙 台	981-1105	仙台市太白区西中田6-15-13	TEL 022-241-2145
群 馬	371-0854	群馬県前橋市大渡町1-8-6	TEL 027-251-3457
東 京	136-0072	江東区大島5-12-7	TEL 03-3638-6911
神 奈 川	242-0029	大和市上草柳8-28-18	TEL 0462-63-3029
名 古 屋	453-0839	名古屋市中村区長茂町4-15	TEL 052-412-1717
大 阪	547-0001	大阪市平野区加美北8-1-18	TEL 06-6794-3511
岡 山	710-0841	倉敷市堀南606-1	TEL 086-426-5200
福 岡	816-0912	大野城市御笠川1-8-7	TEL 092-504-7213
エヌ・ディー システム	891-0175	鹿児島市桜ヶ丘2-22-10	TEL 0992-75-7550
塗機商事	903-0124	中頭郡西原町呉屋108-6	TEL 0989-43-4495